

121001 コガタスズメバチ

日中はまだ暑い日が続くものの、朝晩は涼しくなってきました。

もう既に、今シーズンの「アシナガバチ」の活動もほぼ終了したようで、個体に出会う機会も少なくなりましたし、空になった巣も見かけるようになりました。

それとともに、アシナガバチの巣をハンティングの主なターゲットにしている「ヒメスズメバチ」のコロニーも終焉を迎えつつあると思います。

また、セミを主な餌にしている「モンスズメバチ」のコロニーも、そろそろ終焉を迎えつつあるでしょう。

まだまだ11月の末くらいまで活動するのは、地中や樹洞内に営巣する「オオスズメバチ」や、巣を丈夫なカバーで覆う「コガタスズメバチ」、「キロスズメバチ」などです。

これらの活動期間の比較的長い種の中から、今回紹介するのは「コガタスズメバチ」です。先日、南河内の里山を歩いていた際に出会ったのです。

「コガタスズメバチ」は、体の色彩パターンは「オオスズメバチ」にそっくりですが、大きさは小さいです。（働きバチの比較…オオ：30～40mm、コガタ：25mm前後）

キロスズメバチほどの巨大な巣は作らないものの、ラグビーボール程度の大きさの巣を、葉の茂った庭木や軒下などにもつくり、ハチや甲虫を中心に、いろいろな種類の虫を狩っています。

性質は比較的大人しいとされていますが、剪定などの時に巣を刺激して刺されるケースが多く発生しているようです。

別添の写真は、次第に餌となる虫の姿が少なくなってきた中で、葉っぱの裏まで入念にチェックしながら獲物を探している「コガタスズメバチ」のワーカー（働きバチ）を撮影したものです。

◆写真①～⑦： コガタスズメバチ

◆写真⑧： アシナガバチの巣

◇この巣での繁殖活動も終了したようです。

◇垂直型でしたので、「コアシナガバチ」の巣かも知れません。















